

2016.2.21

「気象コンパス」主宰

古川 武彦

春一番



は3月20日(72年)。昨年は発生せず、一昨年は3月18日だった。「光の春」は目で感じる春だが、春一番は肌で感じる春への道筋の一つであり、決して春一番を境に春が来る訳ではない。梅も春一番を受けて満開へと足を早め、桜の小枝とつぼみも赤味を帯びてきた。昨日からは「水戸の梅まつり」が始まった。

気象庁は週間天気予報を行っている。この春一番も1週間前からの確に予測されていた。近年、予報精度が格段に向上しているの、イベントや旅行、農作業などに役立ててほしい。ただし、毎日更新され、変わる可能性があるの、常に最新の予報を見てほしい。これからは寒気の吹き出しも弱まる。低気圧がより北を通り、南風も入りやすくなるが、その後は冷たい北風も吹くので要注意だ。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)



14日、関東地方に「春一番」が吹いた。水戸では午前9時南南西9.8m/s、日立では10時南南西8.4m/s。水戸の最高気温は23.2度まで上がった。

春一番は冬から春へと季節が変わるこの時期に初めて吹く、暖かい南よりの強い風である。具体的には日本海で低気圧が発達し、風速が8m/s以上、風向は西南西～南～東南東、前日より気温が高く上がる現象で、立春から春分までの間と定義されている。

これまでの最早は2月5日(1988年)で、最晩

2016.2.28

「気象コンパス」主宰

古川 武彦

春はすぐそこまで



この桜、白い花のオオシマザクラと赤いカンヒザクラ(寒緋桜)との自然交雑種と推定されており、早咲きという親の血を受け継いで、ソメイヨシノより1カ月以上も早く咲く。花が下を向くのが特徴である。1955年に発見されたという原木もまだ健在で見応えがある。桜並木の濃いピンクと菜の花の黄色とのコントラストも素晴らしい。そこはもう春だった。

このところ移動性の高・低気圧が次々と訪れるようになった。昼間の時間をみると、冬至に比べて1時間半以上も長くなり、午後6時を過ぎてもまだ明るさが残っている。3月の関東地方の気温は平年よりかなり高い予想となっている。しかし、まだ寒暖の差は大きい。インフルエンザによる休校も出ている。体調を整えて、風邪を召さぬように。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)



「梅は咲いたか 桜はまだかいな」という江戸端唄(はうた)がある。水戸の梅まつりが始まり、次は桜の出番だ。ソメイヨシノ(染井吉野)の薄いピンクの装いと、あっという間に散り行く風情が、古来、人々の心をとらえてきた。桜前線は鹿児島や高知などで、スタートを前に日に日につぼみを膨らませている。関東地方での開花は平年並みで3月下旬のようだ。

一足早い春を求めて、カワヅザクラ(河津桜)の本場である伊豆の河津を訪れた。河津桜はソメイヨシノと異なって、まさに濃いピンクだ。